

1月1日 1887年東経135度の時刻を日本標準時とすることが定められました。

東経135度が日本の標準時と聞けば、何か中途半端な数字のように感じてしまいますが、1時間が15度なので、 $135 \div 15 = 9$  なのですね。

航海時代を迎えたイギリスが航海の安全のために正確な、緯度と経度の計測をするためにグリニッジに天文台を作りました。ヨーロッパの各国でも天文台を建設し、星図を作りましたが、イギリスが世界的な海運国になったことで、イギリスのものを採用することが多かったようです。また鉄道網が広がることで世界標準 自国と子午線が必要になってきました。

1850年にはアメリカが、いち早くグリニッジ子午線を採用し、1884年には国際子午線会議でグリニッジ子午線が採用されました。

日本でも江戸時代には、京都の改暦所を通る子午線を基準にしていますが、1886年にグリニッジ子午線を基準子午線として採用することを定め、翌年1月1日より日本の標準時間を東経135度として適用しました。

太平洋には、日付変更線が存在します。理屈で考えれば不思議なことではないのですが、この問題に最も最初に驚いたのは、世界一周を遂げたマゼランが率いた艦隊の乗組員たちだったそうです。航海中につけていた記録と実際にスペインに戻った時の日にちが1日ずれていて、それがローマ教皇に使者が出されるほどの大騒ぎになったのだとか。

1月2日 1876年日本初のボーナスが支給されました。

日本でボーナスと言えば、夏と冬に給料とは別に賞与として支給されることが多いのですが、そもそも江戸時代、商家や武家の奉公人に対し、主人が年に数回季節に合わせた着物やそのための現金を支給したもので、四季施(しきせ)やお仕着せと呼ばれていました。なにかと物入りの盆暮れに支払われるお仕着せは、奉公人にとって大変ありがたいものだったでしょう。

また、ボーナス「bonus」の語源はローマ神話の成功と収穫の神「Bonus Eventus」から派生したラテン語の「良い」を意味する「bonus」だと言われます。

さて、日本初のボーナスを支給したと言われるのは三菱会社で、あの岩崎彌太郎社長の計らいです。しかし、このボーナス支給には会社を挙げての涙ぐましい努力があったそうです。

1875年三菱の海運会社では上海航路を開設しましたが、アメリカのパシフィック・メール社が立ち上がり官民一体となって上海航路の権益を取得しました。しかし続いて英国のピー・アンド・オー社が進出してきました。またもや熾烈な価格競争となり、三菱では彌太郎社長自ら減給、社員も給与の3分の1を返上するなど大胆なリストラを実施した結果、ピー・アンド・オー社を排斥することに成功しました。

彌太郎社長はこのビジネス戦争の勝利は社員の奮闘の賜であるとして賞与を支給することにしました。そのことが三菱の社内通達をまとめた「布達原記」に記されています。それで日本初のボーナスは三菱会社によって支給されたと言われています。ボーナスが制度として毎年支払われるようになるのは、これより後の1888年からだ

といわれます。その後、徐々に他の企業や公務員にもボーナスが支払われるようになったようです。

明治時代、日本が世界に進出するためには他にも厳しいことがたくさんあったに違いありません。また現代も世界との競争が激化しています。何か見習うべきことがありますよね。

1月3日 駆け落ちの日 っって・・・ちょっと、待って！

まだ三が日なのに、こんな話題ってあり?! だけど、まあ、お正月番組にもそろそろ飽きて、こういう刺激的な話にも興味があつたりして・・・これは 1938年のこの日、女優の岡田嘉子と杉本良吉が、樺太の国境を越えてソ連へ亡命したことにより「駆け落ちの日」なのだから。

岡田嘉子は人気女優でしたが多くの男性と情熱的な恋愛を繰り返し、ついにプロレタリア運動で執行猶予処分になっていた演出家の杉本良吉と不倫関係でソビエトに駆け落ちしました。

日本が軍国主義であったことと、岡田が有名人であったこと、杉本が執行猶予の身分であったことなど日本に居場所を見出せなかったのでしょうか? 共産主義を信じる二人はソビエトに亡命したのですが、その後甘い人生が待っていたわけではありませんでした。杉本良吉はスパイ容疑で銃殺刑、岡田嘉子も10年の拘束生活を強いられます。

戦後岡田嘉子の生存が確認され、亡命したかつての人気女優に対する関心が高まります。そして1972年から1986年まで日本に帰国し女優活動をしています。その後に再びロシアに渡り晩年を過ごしました。

岡田嘉子の名前はどこで耳にしたか分かりませんが、おそらく美貌の人気女優のことを大人たちがスキャンダラスに話していたのでしょう。特に子供心に理解できない「亡命」という言葉が強く記憶に残っています。

共産主義を理想とした二人、ところで共産主義って? 先日池上彰さんが「社会主義と呼べる国はあるけれども、共産主義と呼べる国はない」と言っていました。社会主義の理想を突き詰めたものが共産主義であり、そこには国家は存在しないというのでした。人に欲望がある限り「共産主義」は成立しないユートピアなのだから・・・。

駆け落ちと共産主義・・・ちょっとオチがつかないけど

1月4日 1888年山陽鉄道会社が設立しました。

山陽鉄道会社が設立した1888年のうちに兵庫駅～明石、姫路が開通し、翌年神戸～兵庫間が開通しました。また1901年には下関まで開通し1906年の鉄道国有法により国営化されるまで、現在のJR山陽本線をはじめ播但線、大嶺線(後の美祢線の一部)、讃岐線(後の予讃線と土讃線のそれぞれ一部)などが私鉄山陽鉄道によって運営されていました。

山陽鉄道は積極的に新しいサービスを取り入れた経営をしており、食堂車を連結したり、一等寝台車を導入したり、長距離急行列車を運行したりしたそうです。

1906年から07年に国に買収された私鉄は17社に及び、それまで国営の路線は2,600kmでしたが7,100kmと

3 倍に伸びました。この鉄道国有法には反対も多数ありました。渋沢栄一や財界の有力者たちは資本主義の発展に伴って鉄道経営が大きな利益をもたらし、それが産業を発展させることをよく認識しており、強く反対したのです。

歴史の「もしも」はナンセンスですが、もし鉄道国有法が成立しなければ、日本の軍国主義は存在しなかったのではないか?と思えます。資本主義が発展すれば、軍国主義は存在しにくいからです。1987 年には国鉄分割民営化により再び民営になりました。

岡山県内の鉄道では、1941 年に公布された改正陸運統制令によって中国鉄道（現中鉄バス株式会社）から吉備線と津山線が国に買収されています。1944 年 6 月 1 日 のことでした。

国有化も民営化も歴史の必然かもしれませんが、時刻表にあわせて列車に乗りあわせるためには個人の自由を優先させるわけにはいきません。これって何か大きい意味がありそうです……。

1 月 5 日 1904 年大阪朝日新聞に「天声人語」が登場しました。

天声人語といえば、大学の入学試験で取り上げられることが多いと、高校の先生に「朝日新聞」を購読するように勧められた記憶がありますが……当時、天声人語を担当していたのが深代惇郎氏であったことを考えれば、さもありなんと思えるのです。

ところで、初登場は大阪朝日新聞だったのですね。「天に声あり、人をして語らしむ」という意味で、記者として活躍した西村天囚氏が命名したそうです。出典が中国の書物というのは根拠がないらしいです。

東京朝日新聞に同様のコラムが掲載されたのは 1913 年「東人西人」という名前で、東西の朝日新が統一したコラムになるのは 1940 年 9 月 1 日からです。そのときは「有題無題」と称しました。戦争が激しくなると軍国調の「神風賦」に改題されますが、戦後 1945 年から「天声人語」として復活しました。

最近では集中力・読解力・語彙文章力などを鍛えることができるということで「天声人語」を書き写している人がいるそうです。特に小中学校では朝の時間などを利用して取り組んでいるのだとか。そのためのノートも発売されています。毎朝届く新聞の 603 文字を書き写すのは、手軽で継続しやすいかもしれません。

どの新聞でも、一面の下部に掲載しているこのコラムは短い文章に時事をうまくまとめており、新聞の顔となっており、深い蘊蓄に感心することもしばしばです。でも、書写をするなら論語か何かのほうが、ためになるんじゃないか?と思うのはおっちゃんだけかな……?

1 月 6 日 色の日

(1) い (6) ろの語呂合わせからとられています。そしてマンセル・カラーシステムの発案者であるアルバート・マンセルが 1858 年に生まれています。

マンセルは、アメリカの美術教師であり画家です。色彩を色の三属性（色相、明度、彩度）によって表現する方法を考えました。ちょっと黒味がかかったレンガ色とか、青みの強いコバルトブルーと言っても、どんな色なのか

人に伝えるのは難しいですね。そこで色相が 7PB 明度が 4 彩度が 10 であれば、7PB 4/10 と表すことにしたわけです。チャート表と見合せば、どんな色か一目瞭然です。

同様に表色法には、オストワルド方法をはじめたくさんする方法があります。光の三原色 (RGB) 色の三原色 (CMYK) HSV や CIE L\*a\*b\*、ウェブカラーのカラーコードなどです。塗装業界、印刷業界など独自の色見本を使っています。

四季がある日本では、色の名前や組み合わせが巧みで、微妙な違いを楽しんだり、季節に応じた色使いを楽しんだりしたようです。7PB 4/10 も必要だけれど、萌黄、浅葱、蘇芳、檜皮、利休茶といった普段使わない呼び名は趣があります。和服に見られる襲の技法も素敵です。セクシーと言ってもよいぐらいです。特に江戸時代には、奢侈禁止令のせいか、ねずみや茶系といった地味な色にさえ微妙な色の差でいろいろな名前がついているようで、どの歌舞伎役者が、どんな色を好んだかと流行になったこともあるようです。日本人の繊細な色彩感覚、素晴らしいですね。

1月7日 1957年ラジオ東京で連続放送劇『赤胴鈴之助』の放送が始まりました。

♪ 剣をとっては 日本一に 夢は大きな 少年剣士  
親はいないが 元気な笑顔 弱い人には 味方する  
おう！ がんばれ 頼むぞ ぼくらの仲間 赤胴鈴之助 ♪

父親の形見である赤色の胴をつけた鈴之助が、正義にもとづき剣の道に精進していく話ですおっちゃんも、赤胴鈴之助は 1972 年から始まったアニメ版でしか知りません。

1954 年、『少年画報』に福井英一の『よわむし鈴之助』第 1 回が掲載され、その後武内つなよしによって人気漫画となりました。1957 年にはラジオ劇になり、当時小学校 6 年生だった吉永小百合がデビューしています。実写の映画も 9 作作られています。

鈴之助の必殺技は「真空斬り」、当時の小学生が夢中になって会得しようとしたとか・・・しかし、おっちゃんの子供時代って、こうした必殺技やら魔球やら、いかに多いこと・・・子供が（大人も）単純だったし、楽しかったんですね。

1月8日 1297年フランソワ・グリマルディらがモナコ要塞を占拠しモナコ公国が成立しました。

モナコと言えば、国連加盟国の中では世界最小、そして公認されている国としてはバチカン市国について 2 番目に小さい国として知られています。またカジノや F1 などのモータースポーツ、また前大公の夫人グレース・ケリーも有名です。イタリアとの国境に近いフランスの、地中海に面したところに位置しています。首都はモナコ市で、それが全領土 1.95 平方 km です。モナコの名前はギリシャ語で「一軒家」を意味します。小さいって感じですよ。

モナコの鉄道は、フランス国鉄が運営し、また領土はフランス防衛されています。国家収入は観光と化粧品製造、そして最も注目すべきは個人居住者に対して所得税を課さないタックスヘイヴンなので、世界中からお金持ちが移住しています。モナコ国籍の人はカジノが禁止されているとか、フランス国籍の人はフランスに納税しな

くてはならないとか規制もあるようですが、個人財産の多い国には違いありません。

さて、全領土 1.95 平方 km というのは、どのくらいの広さでしょうか？よく東京ドーム何個分とか言いますが・・・

これは、だいたい東京ドーム 40 個分で、岡山の人にわかりやすく説明すれば、だいたい岡山空港の敷地（駐車場も含めて）より若干広い程度です。その狭いところに約 3 万 2 千人の人が住んでいます。美作市の人口より少し多いぐらいでしょうか。

山の中のだだっ広い空港の敷地と美作市の人口、どう想像したものか・・・でもモナコの写真を見れば納得できますね。美しい海に面した豊かな国。行ってみたいですね。カジノにも・・・

1 月 9 日 1952 年 電気通信省（後の電電公社）が慶弔電報の取扱いを再開しました。

電報は 1869 年に東京横浜で取り扱ったのが始まりです。全国に届くようになったのは、1875 年のことです。大正時代にはタイプライターによって文面が打たれるようになりました。そして昭和に入ると写真電報（1930 年）、年賀電報（1934 年）、慶弔電報（1936 年）が取り扱われるようになりました。電文に年賀やお祝い、お悔やみにふさわしい台紙を配したものです。

戦争中は華美な台紙をつけた慶弔電報は粛清されていたのでしょう。現在の慶弔電報のおしゃれなこと！電話やメールが通信の最も手軽な手段になった現代には、電報をもらうことは意外で、うれしいものかもしれません。台紙とは呼べないような豪華なお花やかわいいぬいぐるみもたくさんありますね。

電気通信省は、1949 年に逓信省が郵政省と電気通信省に分かれたものでした。1952 年には日本電信電話公社に、1985 年には民営化され NTT へと変遷していきました。

電報と言えば、大学に合格したときの「サクラサク」が一番印象的だったでしょうかね・・・配達してくれた当時電電公社のおじさんが、なにやらニヤニヤしながら持ってきてくれたのを思い出します。こっちは落ちていたら・・・とドキドキで、おじさん早く帰れよ！と思いながら開いてみれば、「サクラサク」

おじさんは、おっちゃんのビビリ顔が、一気に緩むのを確認して満足げに帰って行ったんですよ。そうだ・・・。何かお祝い事には電報を送ってみるのも、いいかもしれないな～～

1 月 10 日 1723 年小石川養生所が開設されました。（旧暦では享保 7 年 12 月 4 日）

小石川養生所は「赤ひげ先生」として知られる小川竺船が、目安箱に投書したことがきっかけで設置されました。小川竺船は江戸の貧しい人々のための養生所や施薬院を設けることを将軍に進言し、当時の将軍吉宗は、南町奉行・大岡忠相に養生所設立の検討を命じました。

すごいなあと思うのは、ここで「暴れん坊将軍」と「大岡越前」と「赤ひげ」とオールスターキャストが揃うのです。300 年近く経つのに、いまだに語り継がれるなんて当時の人々にとってはヒーローだったに違いありません。もちろん脚色もたくさんあるようですが・・・。

この養生所は江戸時代の初頭、南麻生にあった薬園を綱吉の時代に小石川御殿内に移した「小石川薬園」内に設置したものです。出来た時には薬草の効能を人体実験するための施設との風評で利用する人が少なかったのですが、養生所の見学を実施したり入所の規制を緩和したりすることで、入院患者が収容しきれないほどになっていったそうです。

幕末には漢方より蘭方が台頭したため養生所は次第に衰退し、明治になってから閉鎖されました。しかし薬草園は、東京帝国大学の管轄となり、現在一般に「小石川植物園」と言われるのは、東京大学大学院理学系研究科附属植物園という固い名前の植物園になっています。また、この小石川薬園では、サツマイモの研究をした青木昆陽が甘藷の試作をしたことでも知られています。

飢饉や貧民救済など、江戸時代のセーフティーネットも侮れないものがありますね。

1月11日 1919年内務省より自動車取締令が公布されました。

1919年当時、日本にどのくらいの自動車があったのでしょうか。恐らく「このまま増えていく自動車を規制もなく野放しにしておくわけにはいかない」ということで取締令が出されたのでしょうか。

日本に初めて自動車が入ってきたのは1898年フランス人・テブレ氏によってパナール・ルヴァッソールというガソリン車だったと言われています。その金額は8,000円、当時の公務員の月給の1,000倍ぐらいだったようです。

国産の自動車第1号は1904年蒸気自動車（山羽式蒸気自動車）です。これを製作した山羽虎夫は岡山の人で、1903年に大阪で開催された第5回内国勸業博覧会でアメリカ車の展示に刺激された岡山の資産家が製作を依頼しました。乗合自動車として経営を考えていたようですが実用にはなりませんでした。

そして、1907年にはガソリンエンジン「吉田式自動車」（タクリー号）が製作されています。また1912年には皇室用に自動車の使用を始めており大正天皇即位のパレードは自動車が使われました。そしてその頃、全国には521台の自動車があったそうです。

この自動車取締法にどのようなことが決められていたかと言えば、自動車の最高速度は1時間16哩（時速約64km）、自動車に具備すべき構造装置は、護謨（ゴム）製の轍、制動機、変速機、速度計、音響器、燈火（前後）燃料タンク（爆発性、可燃性のものを入れるべき器）、そのほか容易に方向転換ができて、バック（逆行）ができることなどと書かれています。

運転免許は、自動車の構造と規則と実地の技術の試験に合格した18歳以上の者に交付され、期限は5年、事故を起こしたらその場で運転をやめて、被害者の救護、応急の措置にあたらなければならないと、速やかに警察官吏に申告し指示を仰ぐように定めています。今と同じなんですね。いや、当時から変わっていないと言いたいのか……スピード違反やそのほかの違反についても記述があり、懲役、禁錮または罰金などが科されたようです。

当時自動車を持っていたら、すごいことだったでしょうが、運転免許を持っていることでさえハイカラなことだったでしょう。子供たちには憧れだったんじゃないのかな。

1月12日 スキーの日

これは、1911年 オーストリア陸軍のレルヒ少佐が、新潟県高田（現在の上越市高田）陸軍歩兵第58連隊の青年将校に日本で初めてスキーの指導を行なったことに由来します。1994年にスポーツ用品メーカー・ミズノが決めたそうです。

スカンジナビア半島では紀元前2500年ごろにはすでに、スキーを履いて狩をする人の様子が壁画に残っており、古くから暮らしの一部だったことがわかります。バイキングは、軍用にもスキーを使っていたようです。

日本に伝わったのは、1908年に札幌農学校でスイス陣の講師が2本のストックを使ったスキー（ノルウェー式）を披露したのが初めだといわれていますが、実際に日本人に指導したのが1911年、レルヒ少佐によるものだとされています。このときは1本の杖を使って滑るものでした。その後北海道旭川でも指導しています。日本陸軍は1902年八甲田山の雪中行軍で遭難し多くの被害者をだしており、スキー技術については関心が高かったようです。

一方、北海道では1916年に欧州から帰国した遠藤吉三郎が2本ストックのスキーを普及させました。1923年のスキー大会で2本ストックの滑走方法が圧倒的に強かったことから、その後ストックは2本が主流になります。

ところで、レルヒ少佐は「スキー発祥100周年」の記念キャンペーンのキャラクターとして、ゆるキャラになっています。キャンペーン後は新潟観光のキャラクターとして「スキー発祥の地新潟」の宣伝に活躍しています。このキャラクターのコンセプトは「気になる、怪しいヤツ」というもの、そして実際にスキー場に登場したときにインパクトのあるものと言うことで、着ぐるみの身長は270cmもあるそうです。

当のレルヒ少佐は1945年にオーストリアで亡くなっていますが、死後65年にもなって、はるか日本でとんでもないキャラクターに生まれ変わっているなんて、想像だにできなかったことでしょう。スキーを最初に日本人に指導した人と言うことで、新潟だけでなく北海道にも顕彰の銅像があります。どちらも1本杖を持っている姿が印象的です。

1月13日 タバコの日

1946年にタバコ「ピース」が発売されたことに由来します。

タバコ的话题で恐縮です。健康のために吸い過ぎにはご注意を・・・

ところで、「タバコ」は外来語でスペイン・ポルトガル語の「tabaco」からと習った気がしますが、調べてみれば、スペインやポルトガルに伝わった時点で、すでにタバコと呼ばれていたようで、原産国の中南米からなのか、アラビア語の「薬草」を意味するものなのかよく分かっていないようです。

江戸時代には、葉タバコをキセルに詰めて嗜むものでした。浮世絵などでもおなじみです。「たばこ道」ともいえる作法も存在したようです。当時はタバコに薬効があると信じられていたので、「延命草」や「長命草」とも言われていたそうです。16世紀のヨーロッパでは医師が「万能薬」として認めていました。

1876年からはタバコに税金がかかるようになります。1904年からはタバコの製造から販売まで煙草専売局とい

う国の管轄でおこなわれるようになりました。当時発売されたのは刻みタバコが3銘柄、両切りの紙巻タバコが3銘柄でした。現在販売されている最も古いタバコ「ゴールデンバット」が発売されたのは、これより2年後1906年のことでした。

さて1946年、戦後に平和という意味のタバコが発売されたのは意味深いです。第一次世界大戦後の1920年にも一時期同じ名前のタバコが発売されています。両切りが10本7円で発売されましたが、当時10本が20～60銭であったことを考えれば、破格の高級タバコでした。

1957年に、パッケージが一新され今のオリーブの葉をくわえた鳩の図柄が使われています。アメリカのデザイナーのレイモンド・ローウィによるものです。総理大臣の月給が11万円の時代に150万円もの大金で依頼されたものだそうです。世界水準の意匠ということで、ピースの売り上げまでもが爆発的に伸びたそうです。高級タバコと言えば昨年1本50円もする「ザ・ピース」が話題になっています。

昔、タバコと言えば、憩いのひと時に疲れを癒し、会話を楽しみながらの一服は和やかな雰囲気とともに大切なコミュニケーション手段でした。また、おもてなしのひとつでもあり、喫煙具にも凝った物が作られており、日本文化や風俗の奥深さを見ることができます。イライラしたときに煙突のようにスパスパタバコを吸うのではなく、タバコは燻らせて嗜むものだったのです。

1月14日 愛と希望と勇気の日

アンパンマンの日かと思いましたが、これは1959年南極大陸で1年間置き去りにされたカラフト犬タロとジロの生存が確認されたことにちなみます。その後、タロは日本に戻ってきて1970年まで生きましたが、残念ながらジロは日本の地を踏むことなく1960年越冬中に亡くなっています。

1956年第一次南極観測隊については11月8日のところでも触れたのですが、映画、TVドラマ、そのほか絵本にいたるまで、いろいろな形で語り継がれているのは、置き去りにされた犬の兄弟が生きていたからに他ありません。

この2匹がなぜ生き残れたか、そして再会できたかを考察したのを見れば、タロジロが一番若かったこと。兄弟でいつも行動をともにしていたこと。タロジロは昭和基地を自分たちの家だと認識していたのではないかとと思われること。(他の犬は遠いところに連れてこられたと思っていた)

犬たちは、基地に残されていた食料を食べていなかったこと、また共食いをしていなかったことから、アザラシの糞やペンギンなどを容易に手に入れることができたのだろうとされています。また、無人の昭和基地に立ち寄ったソ連隊が2頭の黒い犬に出会い餌をやったという話も残っています。

タロジロが生きていたことは、日本国内だけでなく世界中で報道され、話題になったそうです。ディズニー映画でリメイク版が作られていることを考えれば、確かにこの奇跡は愛と希望と勇気を私たちに与えてくれますね。

1月15日 1966年常磐ハワイアンセンター（現スパリゾートハワイアンズ）がオープンしました。



映画でも広く知られたフラガールたちは一昨年の東北の震災で被災し、練習場所を失いながらも全国行脚したことで有名になりました。

映画にはフィクションもたくさん含まれるでしょうが、常盤炭鉱でにぎわっていた町が1955年ごろから構造不況による人員削減や業務縮小で、どんどん寂れていき、その対策として考えられたのがリゾート施設「常磐ハワイアンセンター」でした。

炭鉱では厄介ものであった温泉を利用し、当時まだ憧れの「ハワイ」をイメージした温泉リゾートを目指しました。温泉を利用して東北では難しいヤシの木などの熱帯植物を臨場感たっぷりに大ドームに再現し、本格的なフラダンスを披露するためにフラダンサーの養成所を設けるという用意周到ぶりでした。

当時の入場料は400円、アロハシャツを1枚買って300円ということで「1000円持ってハワイに行こう」をキャッチフレーズにしていたそうです。

バブル時代には「本物のハワイに行った方が楽しめる」と低迷した時期もありましたが、東京、仙台からのアクセスがよいことと手ごろな価格であること、また映画の人気も相まって最近では安定した集客を保っていました。

フラガールたちが再び脚光を浴びたのは、東北大震災と原発事故により休館を余儀なくされたことでした。「フラガール全国きずなキャラバン」は2011年5月から9月まで全国26都府県と韓国ソウル市を含め125か所、247回の公演を行いました。

アミューズメントパークやリゾート施設も、勝ち組、負け組の明暗が分かります。どこが違うのか一概には言えませんが、このスパリゾートハワイアンズを見る限りでは、とにかく徹底していると言う感じを受けます。熱意や意気込み、はつらつとした雰囲気は多くの人々を魅了するに違いありません。

1月16日 アメリカで1919年酒の製造や販売などを禁じた禁酒法が議会を通過し翌年の1月より施行されました。

1920年～1933年、アメリカでは禁酒法が施行され、ギャングたちによる密造や密売が横行しました。特に有名なのが、アル・カポネでシカゴのボスとして君臨していました。1927年の年間純利益が1億5千万ドル（約2百40億円）にも上ったと言われています。

禁酒法は宗教家と女性運動家による禁酒の推進とビールを輸入していた敵国ドイツに対する不買運動がエスカレートして法制化されたものでした。禁酒法とはいえ、庶民はお酒をどこからか手に入れ、また役人や議員、警官までもが密造業者から賄賂をもらっていたそうです。

ギャングのボス アル・カポネ VS 財務省の酒類取締局の捜査官 エリオット・ネスを描いたのが「アンタッチャブル」です。（捜査官たちが）買収されない人々と言う意味で「アンタッチャブル」ということらしいです。

1987年にケビン・コスナーがネスを、ロバート・デ・ニーロがアル・カポネを演じました。また捜査官チームの

初老のメンバーをショーン・コネリーが演じています。古くはTVドラマもあったそうです。

とにかく、マシンガンがガンガン火を噴き、血のりがドボドボと流れます。実際の捜査では、こんなにギャングが殺されるなんてことはなかったそうですが、禁酒法じゃなくて、禁銃法にすれば・・・なんて思っています。終盤のユニオン駅での階段落ちは有名なシーンで、いかにも見せ場を作りましたって感じですが、面白いのです。

極悪非道の代名詞のようにいわれるアル・カポネですが、彼は「他人が汗水たらして稼いだ金を価値のない株に変える悪徳銀行家は、家族を養うために盗みを働く気の毒な奴より、よっぽど刑務所行きの資格がある。悪徳政治家など世の中には高価な服を着て偉そうな話し方をする悪党がこんなに多いとは知らなかった」とインタビューに答えているそうです。ある意味当を得ている気がしますが・・・。

1月17日 今月今夜の月の日

♪ 熱海の海岸 散歩する  
貫一お宮の 二人連れ  
共に歩むも 今日限り ♪

尾崎紅葉の『金色夜叉』は、1897年1月1日～1902年5月11日まで読売新聞に連載された小説です。この中で主人公の貫一が熱海の海岸で自分を裏切った恋人のお宮に"いいか、宮さん、一月の十七日だ。来年の今月今夜になったら、僕の涙で必ず月は曇らせて見せるから"と言い放ったことから、1月17日は「今月今夜の月の日」になりました。

この小説にちなんだ「お宮の松」と、上記の歌謡曲が一体となって爆発的に流行し主人公「貫一・お宮」はあたかも実在の人物のように国民の心をとらえて離さない存在となりました。

また、小説は尾崎紅葉の死によって未完のまま終わり、読者の想像力をかきたて、一目でも物語の舞台を見ようと多くの観光客が熱海を訪れました。そこで熱海では毎年1月17日に「尾崎紅葉祭」を行うようになりました。

ところで1897年から2011年までの1月17日のお天気を調べれば、晴れ 88回、くもりもしくは雨、雪 27回だそうです。貫一が必ず曇らせると言った割には、晴れているのですね。って言うか、調べた人、えらい！でもこの日の夜が曇り空になることを「貫一曇り」と言うらしいのです。

今年は117年目になります。さて、貫一の怨念は、月を曇らせるのでしょうか？！

1月18日 1882年 A.A.ミルンが生まれました。

ミルンと言えば、ディズニーキャラクターの「クマのプーさん」の作者として知られています。このお話は、ミルンの彼の一人息子クリストファー・ロビンのために書いたことは、よく知られています。他にも長編推理小説「赤い館の秘密」や「ユーラリア国騒動記」などのファンタジーも書いています。

「クマのプーさん」は1925年12月24日新聞「イヴニング・ニュース」のクリスマス特集に短編小説として掲

載されました。そして、プーさんが活躍するお話が次々に書かれていき、多くのファンを魅了したのです。プーさんのパロディーやバースデー・ブックなど多数の関連書籍も発行されています。

世界中で人気のプーさんシリーズは30を超える言語に翻訳されています。日本では1940年に石井桃子さんによって翻訳されたものが岩波書店から出版されています。

ディズニーキャラクターの「クマのプーさん」は、ミッキーマウスと並ぶ人気者です。日本では、プーさんの方が断然人気が高く、2002年の調査では、ハローキティ、ミッキーマウスを抑えて、堂々首位の座を射止めています。ちょっと、おバカで憎めない、のんびりプーさんには、多くの人が癒される・・・ってことでしょうかね。

1月19日 1952年 モンテンルパ（フィリピン）でBC戦犯17名の処刑が行われました。

1952年と言えば、戦後7年が経過しサンフランシスコ講和条約から1年もたっておりA級戦犯さえも免責されようとしている時にフィリピンマニラ郊外のモンテンルパ刑務所では、BC戦犯17名の処刑が行われました。これは、フィリピンから80億ドルの賠償請求があったものを日本が断ったためにキリノ大統領が戦犯を処刑したのだと言われています。

そして、その年の6月に人気歌手の渡辺はま子の自宅に一通の封書が届きます。その中には楽譜と短い書簡が入っており楽譜のタイトルは「モンテンルパの歌」となっていました。作詞代田銀太郎、作曲伊藤正康はモンテンルパに収容されていた戦犯で、いつ処刑されるのか不安な日々をすごしていた人たちでした。当時 刑務所には108人の戦犯が収容されていたそうです。

渡辺はま子は「支那の夜」「蘇州夜曲」などのヒット曲があり、戦場への慰問活動も積極的に行っていた人気歌手でしたが、「モンテンルパの歌」を手にしてからは、この曲のレコード化、実際に現地に行つての慰問、キリノ大統領に戦犯の釈放を嘆願し実現にこぎつけました。

渡辺はま子が当時国交のないフィリピンを訪問するまでの苦労やキリノ大統領が物悲しいメロディーに心を打たれ、戦犯108名の釈放が実現したことは、とりもなおさず言葉と人種、国境を越えた歌の力とも言えるでしょう。彼女の活躍については、中田整一著モンテンルパの夜は更けて 気骨の女・渡辺はま子の生涯』に描かれており、またTVドラマやお芝居になっています。

心に太陽を、唇に歌を・・・歌に癒されたり勇気づけられたりするのですね。あなたの愛唱歌はなんですか？

1月20日 1965年 日本航空が海外団体旅行「ジャルパック」を発売しました。

戦前、戦後はもちろん日本人の海外旅行は厳しく制限されていました。外国に行けるのは仕事か留学か視察など特別な人で国から認可が得られる場合に限られていたのです。

1964年から一般市民による観光旅行ができるようになりました。ただし外貨の持ち出しは年1回500ドルまででした。もちろん費用が高額で一部のお金持ちに限られていましたから庶民には夢のまた夢といった感じでした。「トリスを飲んでハワイに行こう」なんてキャッチフレーズは流行語にもなっています。

しかし、1901年に発行された報知新聞の「20世紀の予言」では今世紀中に海外旅行が一般化するだろうと予測されていました。

これからは海外旅行が、だんだん庶民のものになる・・・そんな折に、日本航空から日本初の海外パッケージツアー「ジャルパック」が発売されました。参加者には旅行鞆がサービスされたので、その鞆が旅行者の間でステータスになったそうです。ジャルパックは海外旅行ツアーの代名詞となるほどに人気があったようです。

海外旅行が一般化するのには1970年以降で、飛行機の大型化や変動相場制による円高が進んだことで海外旅行が身近なものになっていきました。近隣の外国旅行なら国内旅行と変わらないぐらいで行けるという感覚になっていきました。

最近では格安航空券も簡単に入手でき、パッケージツアーでなくても気軽に海外旅行ができるようになりましたが、日本人の海外旅行者数はここ10年ほど横ばい傾向で外国と比べても、それほど多くの人が海外旅行（島国でなければ、普通に外国旅行ですね）しているわけではないようです。近年は20代の旅行者数が激減しており、海外旅行は（安いツアーは）国内旅行に比べて、不便でサービスが悪くて、汚くて不味い・・・そんな感じかもしれません。すでに「憧れのハワイ」は過去の幻になったというべき？

1月21日 料理番組の日

1937年イギリスのBBCテレビで料理番組の元祖と言われる「夕べの料理」の放送が始まりました。第1回の放送ではオムレツの作り方を紹介しました。

奇しくも1963年の1月21日には、キューピー3分クッキングの放送が始まっています。キューピー3分クッキングには、2バージョンあって、岡山で放送されているのは日本テレビ系です（NTV版）。中部日本放送の制作しているCBC版の方が1ヶ月ほど早く始まっています。キューピーというのは、もちろんマヨネーズでおなじみの食品会社、キューピー株式会社のことで1社提供の番組です。

料理番組では長寿番組としてギネスブックに認定されていますが、NHKの「きょうの料理」が1957年11月4日に始まっていますので、そちらの方が本当は長く続いている料理番組です。

日曜日以外の毎日、お昼前に「タララタタタン～タララタタタン♪」の軽快なテーマ曲イェッセル作曲「おもちゃの兵隊の観兵式」で始まります。そんなに番組を見たことが無いって人でも、この曲で始まることはご存知じゃないでしょうか？いろいろなパロディーで使われることも多いです。

タイトルは3分クッキングですが、実際は10分間の番組です。かつては3分の番組だった名残だそうです。今は3分ぐらいでできる簡単な料理という意味合いで、そのままのタイトルが使われています。でも実際に3分できる料理はないようです。

1月22日 飛行船の日

1916年 国産の飛行船「雄飛号」が所沢～大阪間で初めて実験飛行に成功したことに因みます。

そういえば、先日 16 日に スヌーピーの飛行船が飛んでいるのを見ました。これは、現在日本で唯一運行されている、メットライフアリコの名前を宣伝するための飛行船「スヌーピーJ号」です。

空を見上げて、飛行船がいたら・・・ちょっと嬉しくなりました。

なんだか、ゆったり ふわふわ 空の上には希望がありそうです。アリコのサイトには「飛行船を見つけてくれた皆様が、ちょっとうれしいひとときをすごしていただけるようお願いをこめて」と書かれています。確かに、そうですね。

ちなみに、このスヌーピー号の大きさは、全長約 39m 全幅約 11m 高さ約 13.4m 時速は約 85km

さて、日本で最初に飛行に成功した飛行船「雄飛号」は、全長約 85m 全幅約 15.5m 高さ約 22.5m 時速は約 58~68km、だったそうですから スヌーピー号よりずいぶん大きいですね。空を飛んでいたらさぞかし、迫力があつたことでしょう。所沢から大阪まで、途中豊橋に着陸して合計 11 時間 34 分 かかったそうです。

現在、飛行船は航空輸送というより宣伝や大気圏の観測などに用いられています。世界中には約 20 機の有人飛行船が飛んでいます。パイロットは専門の資格が必要なので、その数は、宇宙飛行士より少ないのだとか・・・。

1 月 23 日 1910 年逗子開成中学校の生徒ら 12 名が乗ったボートが遭難、全員が死亡しました。

1910 年の 1 月 23 日は日曜日、学生たちは無断で海軍から払い下げられたボート「箱根号」に乗り、海ガモを撃つために艇庫のある葉山から江ノ島方面に向け漕ぎ出しました。晴れていても七里ガ浜の沖合は冬場、季節風により荒れやすいところだそうです。この学生たちは素行のよくない者たちだったとも言われていますが、仲間同士抱き合ったまま海底に沈んだ遺体は、人々の涙を誘ったと言われています。

事故から 2 週間後に学校で追悼大法要が行われ、その時に姉妹校の鎌倉女学校生徒がそろいの黒紋付き・はかま姿で「真白き富士の根」を歌ったそうです。鎌倉 女学校の教師三角錫子が作詞し、曲はアメリカ人ジェレマイア・インガルスによるものです。賛美歌を基調にした美しいメロディーと悲しみに満ちた歌詞は、その後多くの人に歌い継がれました。

さて、この事故は遠い神奈川県の話と思いきや岡山と関係があると知って、びっくりしました。

生徒たちが無断でボートに乗ったことを監督不行届きとされ、学校を辞めることになった先生がいました。その先生は慰霊のために身一つで四国巡礼をした後、岡山で養子になったそうです。先生の息子が作家の宮内寒弥で、父親と事故について小説「七里ヶ浜」を著しています。これは平林たい子賞を受賞し一躍有名になりました。宮内寒弥は岡山県出身、本名は池上子郎。

真白き富士の根の歌詞の中に「帰らぬ浪路に、友呼ぶ千鳥に 我も恋し、失せし人よ」の一節があります。亡くなった学生の中に三角錫子の恋人がいたと小説「七里ヶ浜」に書かれているそうです。

また遭難地点に近い稲村ヶ崎には慰霊碑が建立されており、兄弟で乗っていて亡くなった徳田兄弟モデルにした

等身大のブロンズ像は「兄弟愛と人間愛のシンボル」として彫刻家・菅沼五郎が制作したものです。

1月24日 全国学校給食週間が始まります。1月30日まで

1946年12月24日連合軍最高司令官総司令部、ララ委員会、日本政府立会いの下、東京都永田町小学校でララ物資の贈呈式を行ったことにちなみ文部省によって学校給食が再開されたのを記念して12月24日を学校給食記念日としました。しかし、この日は多くの地域で冬休み期間に当たるため、1951年から毎年1月24日から1月30日を全国学校給食週間とし、学校給食の意義や役割について児童生徒や教職員、保護者、地域住民の理解と関心を深めることを目的としました。

学校給食の起源は、1889年山形の私立忠愛小学校で貧しくて、お昼ご飯を持ってこられない子供たちに、おにぎり・焼き魚・漬け物の食事を出したことが始めとされています。その後、各地で欠食児童対策としてパンなどが配られるようになります。1930年代に入ると学校給食臨時施設法が制定され、一部ながら学校給食が実施されるようになりました。戦前、戦中は食糧事情の悪化で給食は中断されましたが、戦後アメリカや諸外国、ララ物資、ユニセフなどの支援によって徐々に再開されました。1952年頃からは全国的に完全給食が実施されました。

ちなみにララ物資とは、ララ（LARA; Licensed Agencies for Relief in Asia: アジア救援公認団体）が提供していた日本向けの援助物資のことで、ララは1946年1月22日にサンフランシスコ在住の日系人浅野七之助が中心となって設立した「日本難民救済会」を母体としていました。ララ物資はアメリカからの支援と言われていましたが、ララが日系人によって組織された団体であったことは、長らく日本人には秘密にされていました。やはりアメリカ人は反日感情が根強く、日本への支援は抵抗があったようです。しかし、政治的には敵国に支援する心広いアメリカを演出していたわけです。

ところで、給食の画像を探していて、おかずの器が2つあることにショックを受けました。おっちゃんたちの時代、おかずは1品だけだったのに～

食育という言葉も一般的になりましたが、生活習慣病を予防するためには、子供の頃から食べ物や食事に関心を持つことが大切だと思います。給食を通じて食べ物に対する意識を高めたり、先生、生徒と一緒に食事することでコミュニケーションを深めたりできれば意義があることでしょう。

1月26日 1905年南アフリカのカリナン鉱山で史上最大のダイヤモンドの原石「カリナン」が発見されました。

ダイヤモンドなど、とんと縁のないおっちゃんですが、3106カラット（621.2g）という大きさにはビックリします。この原石は9つの大きな石と96の小さな石に分けて加工されました。一番大きいものはカリナンI世、別名「偉大なアフリカの星」と呼ばれています。これはイギリス王室の所有で王笏に飾られており、ロンドン塔で展示されています。

大きなその他の8つのカット（II～IX世）もイギリス王室と王族個人の所有で、王冠、ペンダント、指輪などになっています。

このカリナンは発見されたときの状況から、もっと大きい原石の一部だったのではないかとされていたそうですが、その後、残りの原石は発見されていません。

大きな原石を加工するために当時最高の技術を持った技師が呼ばれましたが、あまりにも責任重大で、どこからカットすべきか慎重に調べたそうです。ダイヤモンドにはへき開性があって、どこか一点を見つければ、硬いダイヤモンドといえども簡単に加工できるのだそうです。この技師は、極度の緊張でカットするときに気を失ったと言われています。そして、うまくカットできて再び気絶したのだとか。。。。。

世界に二つとない貴重なもので、イギリス王室に贈られるものとなれば、尋常な緊張ではないですね。「失敗したけど二つに数が増えてよかったね」なんて冗談は通じないでしょうし、失敗すれば、技師の首と胴体が二つに分かれたかもしれないですね。あ～～ 恐ろしい。

1月25日 1885年北原白秋が生まれました。

北原白秋と言えば、童謡雑誌「赤い鳥」に作品を発表し「からたちの花」「まちぼうけ」「この道」など多くの童謡や詩を残した人として有名です。

子供の頃読んだ白秋の伝記に、幼少期の愛称が「確か。。。なんとかジョンだった」と記憶していたので、調べてみれば「トンカジョン」。これは柳川地方の方言で「トンカ」は「太か」で、大きいという意味、「ジョン」は「坊ちゃん」。つまり「大きな坊ちゃん」のことでした。

造り酒屋の長男で弟が3人いた白秋は、弟たちへの手紙に「トンカジョンよりチンカジョンへ」と書いたりしたそうです。(チンカジョンは小さい坊ちゃん) この筑後地方で使われている「ジョン」の語源は、白秋自身が『思ひ出』のなかでオランダなまりではないかと書いているそうです。オランダ語では、若い=jong (Jongen=ヨングェン=8歳以上の男の子) (Jongetje=ヤンチュエ=3歳から7歳の男の子) なのだとか。

また子供の頃体が弱く、すぐ壊れてしまう「ビードロビン」とも呼ばれていたと、その伝記に書いてあったのを思い出しました。子供の頃、体が弱く繊細な心と不安な気持ちを持っていたことが、後の作風に表れているのかもしれない。時代を越えて愛される白秋の童謡は、人々の心に優しさを与えてくれるようです。

1月27日 1838年アメリカ合衆国で、チェロキー族インディアンに対する強制移住措置がはじまりました。

アンドリュー・ジャクソン大統領によりジョージア州に住んでいたチェロキー族インディアンを、オクラホマ州のインディアン居留地に強制移動させました。このとき、15,000名いたチェロキー族のうちおよそ4,000名が途上で亡くなりました。

アメリカに移住する白人が増えていくにつれ、先住民であるインディアンとの緊張関係が高まっていきました。特にゴールドラッシュと言われた金鉱の発見で、いよいよインディアンの存在はアメリカ政府にとって邪魔になってきました。

そこで、チェロキー族をはじめいくつかのインディアンの部族を強制移住させることにしたのです。老若男女一様に重い荷物を担がせ、徒歩で長い距離を移動させたので、大勢のインディアンが亡くなりました。

「インディアン、嘘つかない」という言葉があります。

最近では、あまり聞かないのですが、おっちゃんの子供のころはコントなどでもよく使われており、面白がって真

似ていた気がします。

ところで、インディアンは本当に嘘をつかないのでしょうか？

インディアンは言葉には魂が存在すると考えていました。ですから、一度発した言葉は、神様との契約にも等しく、それを反故にすることはなかったと言われています。もちろん昔の日本人も「言霊」と言って、言葉に魂があると考えていましたね。

自然と共生し、争うことなく暮らしていたインディアンの言葉には、すばらしい言葉がたくさん残っています。改めて鑑賞したいものです。

忍耐力をもて。あらゆることは時が来れば変化する。  
秋の栄光をもたらすのは、願いではなく、  
望んだからといって、冬の到来を止めることはできない。

ジナリ・リー (チェロキー族)

1月28年 1958年レゴ社がレゴブロックの基本構造に関する特許を出願しました。

ブロックと言えば「レゴ」といわれるほどですが、実はおっちゃんたちの時代には、レゴは高くて、買ってもらえたのはカワダのダイヤブロックだったりするのです。でもレゴの精密な感じは憧れだったな～。

創業者のオーレ・キアク・クリスチャンセンは1916年農家を相手に家を建てたり家具を作ったりする小さな木工所として創業しました。その後、木製玩具や貯金箱を作って販売しました。1932年には社名を「レゴ」と改め、1949年からは木製玩具からプラスチック製の玩具を作り始めました。レゴとはデンマーク語で「よく遊べ」から考えられた名前だそうです。

レゴブロックのデザインや構造に各種の改良が加えられ、1958年には今の形が出来上がり特許出願がなされました。レゴの特許が切れた1988年以降、類似のブロックが世界各国で発売されているようです。

レゴは子供だけでなく大人でも十分楽しめ、特に細かい歯車やモーター、マイコンまでついた高度なシリーズも多数発売されています。街、ロボット、宇宙、恐竜、鉄道などのスタンダードなものから、映画などで人気になったキャラクターのセットなど、ブロックでできているのか疑うような精密な仕上がりになっています。

レゴのテーマパークなどもあって、たかがブロックではない芸術性を見せています。ブロックで造形を競うTV番組を見ることもありますが、あの細かい作業を続ける忍耐力と空間認識力には、ほとんど感心するんですね・・・。

1月29日 人口調査記念日

1872年日本で初の全国戸籍調査が行われました。

当時の人口は男1679万6158人、女1631万4667人で合計3311万825人でした。



人口調査は、もちろんもっと古い時代から行われていました。記録に残る最古の人口調査は 350 年頃崇神天皇の時代と言われています。残念ながら当時の人口までは記録されていません。大和朝廷が今の日本全体の人口を把握できていなかったかもしれません。

基本的に、人口調査は課税のために行うものでした。特に女性は税金が安いということで、異常に女性の割合が高い結果が出ていたこともあるそうです。

現在は 1920 年から国勢調査が行われています。

ところで国勢調査では、毎回女性の既婚者の方が男性の既婚者より多く出るという不思議が起こり、謎の一つとなっているそうです。愛人を持っている男性が多いってことでしょうか？

1 月 30 日 1810 年（文化 6 年 12 月 25 日）『大日本史』が江戸幕府に献上されました。

大日本史と言えば水戸徳川家によって編纂された歴史書で、開始したのが徳川光圀つまり黄門様ですね。光圀が亡くなった後も水戸藩の事業として継続され、完成したのは明治時代になってからだそうです。扱っている時代は、神武天皇から後小松天皇まで（1392 年）の百代の帝王の治世です。

ところで、水戸黄門といえば、諸国漫遊の TV で有名ですが、実は江戸と水戸の往復と鎌倉ぐらいしか行ったことがないというのを知る人ぞ知る事実です。黄門様漫遊記は、江戸時代、講談師によって創作された話だそうです。

でも、漫遊の主人公になるには、それなりの理由があったはず・・・何か元になるエピソードでもあったのでしょうか？

実は光圀は、若いころには不良だったそうです。兄を差し置いて世継ぎになったことに悩み自暴自棄だったのだとか。しかし、元来賢くて勉強熱心な人でしたから、勉学に目覚めてからの光圀は確かに名君だったようです。そういう、やんちゃなところが、庶民に愛される黄門様になったのでしょうかね。

1 月 31 日 1912 年中央線・中野～昌平橋に女学生の身辺保護のため日本初の婦人専用電車が登場しました。

女性専用車両は最近の風潮かと思っていましたが、その歴史は案外古いものなのですね。

古来より「男女七歳にして席を同じうせず」と言われるぐらいですから、同じ車両の同じシートに座るとか、ラッシュ時に男女の体が触れ合うなんて風紀の乱れと考えていたようです。しかし、女性のために特別な車両を用意することは、やはり実情に合わなかったようで、短期間に廃止されました。

その後は 1920 年 10 月神戸市電が、また、1933 年には阪神急行電鉄（阪急）が神戸女学院の生徒のために、それぞれ女性専用車両を用意しましたが、いずれも短期間で廃止されています。

1980 年代になって痴漢行為などの性犯罪防止のために、再び女性専用車両が導入され始めました。女性専用車両は連結の端に設定されていたり、分かりにくかったりする場合も多いし、また比較的空いているなどの理由で

男性、女性ともに不便を感じるようですが、やはり性犯罪の予防や、痴漢行為の冤罪防止から賛成の立場をとる人もおられますね。

女性専用車両があるなら、男性専用車両だってあればいいじゃない！と考えられますが、なぜか女性だけ、男性だけより男女混合の方が詰め込みやすいという不思議な事実もあるのだとか。

大豆だけ、小豆だけをマスに入れるより、大豆と小豆を混ぜた方がたくさんマスに入るって事なんですか？え？　そういうことじゃない？？